晴れた日には出かけよう！
～まちのミリョクを再発見!!～

25 高原社（たかはらしゃ）のスギ

天高くまっすぐ育って５００年！ ひっそりと鎮座する神域の大樹

大久野の肝要（かんよう）地区にある高原社のスギは、昭和53年(1978)に町の天然記念物に指定されました。高原社は、つるつる温泉へと向かう都道沿い、肝要の里付近にあります。境内は通りからわずか30m程しか離れていないのに、まるで外界から切離された神域といった雰囲気で、とても厳かな空気に満ちています。

山里の風景に溶け込む高原社

拝殿と覆屋に囲われた流造りの本殿の傍らには、稲荷社と山の神様である山祇社（さんぎしゃ）の祠（ほこら）が祀られています。記録によれば、高原社は享保（きょうほう）7年(1722)に建立されたとあり、「にってんしゃ」とも呼ばれ、天照大神（あまてらすおおみかみ）（天照大御神）と月詠命（つくよみのみこと）が祀られています。

天照大神は太陽の神様で、日本の神様の最高神の地位にあり、神々の住む高天原（たかまがはら）の主宰神（しゅさいしん）でもあります。天照皇大神（あまてらすすめおおかみ）などとも呼ばれ、三重県の「伊勢神宮内宮」では、三種の神器の一つ八咫鏡（やたのかがみ）を御神体として祀っています。また、月詠命は月の神様で、夜の世界を統べるとされています。天照大神の弟で須佐之男命（すさゆきおのみこと）の兄という、日本神話において重要な位置を占める神様であるにもかかわらず、その神話は少なく、なぞの多い神様でもあります。

天高くそびえる高原社のスギ

高原社のスギは参道の奥、本殿に向かって右手にあります。古くから御神木として地元の皆さんに大切にされていて、樹齢は推定400～500年とのことです。樹高は40mをゆうに超え、幹周りは6m程にもなる、スギとしては町内で一番の大樹です。天高く太くまっすぐ伸びたその容姿は、大自然の威厳のようなものを感じます。

スギという樹名の由来はいくつかあり、真直ぐ伸びる木「直木（すぐき）」や、上へ進み上る木「進木（すすぎ）」などといわれています。その由来どおりにスギは幹が真直ぐに伸び、割裂性が良い事などから、古くから木材資源として活用されてきました。スギの植林事業は江戸時代ごろから始められ、今では国土の1割を超えています。日の出町では、林業が盛んだったこともあり、行政面積の実に5割強がスギ・ヒノキの植林の山であり、私たちの生活にも深く関わっています。

肝要から、つるつる温泉へと続く都道沿いには、高原社のスギ以外にも町指定天然記念物の赤保谷家のヒイラギや、指定はされていませんが元の大久野キャンプ村にあるケヤキ、紅葉の美しい松沢寺のモミジなど、高原者のスギの他にも銘木・大樹と呼ぶにふさわしい樹々が数多く存在しています。また、一ノ護王社の石積みや松尾バス停付近のお宅の城壁を思わせる立派な石垣、つるつる温泉付近の石積みと土蔵など、山里の景観が数多く残されていて、訪れるひとの目を楽しませてくれます。この秋は、紅葉を楽しみながら「肝要ー三ツ沢」山里ハイキングはいかがでしょうか。歩いたあとはのんびりと「つるつる温泉」に入って、つるつるほかほか～っと、気持ちよく温まってから帰りましょう。

アクセス

高原社へは「奈都地橋」バス停下車、徒歩３分です。
松尾方面へ進み左手になります。
つるつる温泉までは約 2km です。

日の出ＷＡＬＫ（観光マップ）【F-4】

※この記事は広報日の出第 496 号（2010 年 11 月）に掲載されたものに加筆修正をしたものです。